

# 日本語を楽しく

## 【最終回】私の落ち穂拾い

作家 阿刀田 高



つね日ごろ、なにかおもしろそうな知識に触れると、**備忘録**に書き留めておく。ほんの二行でいい。ささいなことでもかまわない。むしろそのほうが多いだろう。庭に来る鳥の名前を知ったとか、血液型はどうしてAとBとのほかがあるのか、虹の色は紫が上か下か、などなどである。それをあとでとりとめもなく読み返す。感想や発見が生じておもしろい。

さながら落ち穂拾いのように言葉にかかわるものを拾って調べてみた。



頭に「ド」がつく言葉。どまん中、ど根性、どぎつい……。意味を強めていることはまちがいない。ど素人、ど田舎……。軽蔑も少し含んでいるかもしれない。

—— 本来の日本語だろうか ——

広辞苑を引くと、二つの意味が載っていた。もちろん昔からの日本語、その接頭語。引用すれば①ののしり卑しめる意を表す。「阿呆」「畜生」。②その程度が強いことを表す。「ぎつい」「まんなか」

ドという音が持つ力強さと泥くささが作用して  
いるのかもしれない。

日本語かな、と疑ったのは、

——「超下級」という言葉があったな——  
これもレベルが凄<sup>すご</sup>いことである。ドだけでも凄



いのに、それを超えているらしい。これも広辞苑  
で調べてみた。「超弩級」と書いて、

「同類のものよりも、けた違いに大きいこと。――

かん【超弩級艦】(super-dreadnought) 攻撃  
力・防御力などにおいて弩級艦に超越した戦艦。  
↓ドレッドノート」

とあって、

——なるほど、そういうことであつたか——

さらに「ドレッドノート」を引くと、

【dreadnought】(「恐いものなし」の意) 一九

〇六年イギリス海軍が建造した大型戦艦の名。

以後、同種艦の総称となる。弩級艦。つづいて

超弩級艦・超超弩級艦が建造された」

と、わかる。よほど凄<sup>すご</sup>い戦艦だったのであろうが、

こんな言葉が日本語に定着したのは、

——やっぱりドの発音の、どぎつさのせいじゃ  
ないのかな——

接頭語のドとの感覚的共通性を思わないでもな

かった。英和辞典を調べると、dreadが「恐れ

る」で、noughtが「ゼロ」。恐れるものがない

にもない、のだから。このあたりでドについての

知識と調べは完了した。

日本語をそこそこに覚えたアメリカ人が、

「マイニチ コウエンデ サンボシナガラ クソ

ヲシマス」

言われたほうは少し驚いたらしい。

——糞くそだろうか——

糞なんて紳士が日ごろの会話で使う言葉ではな

いけれど、外国人は辞書にそう訳してあれば使う

だろう。思案をめぐらせ、

「犬ですか」

犬を連れて散歩をするのではあるまいか。しか

し、

「ワタシ クソヲスルノ スキデス」

そういう趣味もあるのかな……。

少し話しあって「空想をする」のだ、とわかっ

たとか。よかったですね。日本語の長音、つまり

「ー」の記号で延ばす音は欧米人にはわかりにく

い。「空想」が「糞」になるのは、おおいにあり

うること、なべて留意が必要だろう。

外国人の日本語と言え、これもアメリカ人、

ある日本のレディに対して、

「アナタ キライ デス」

と言って「髒ひんしゅくを買った、と、べつなメモに記

してある。その実、彼は、

「アナタ キレイ デス」

と言ったのであり、キライとキレイ、ここでは

まったく正反対の意味になるだろう。日本語を発

する外国人は増えているけれど、これからは細か

い配慮が必要となるにちがいない。

備忘録にはまだこの方面の落ち穂が少し散って

いるけれど、とりあえずこのエッセイはここで閉

じよう。